

# 睡眠時無呼吸症候群と肝臓疾患

日本歯科大学医科病院内科の前向きコホート研究

2019年12月

かんじんかなめ（肝腎要）と言われるほど重要な臓器「肝臓」。その肝臓にも睡眠時無呼吸症候群（SAS）が悪い影響を与えることが日本歯科大学内科学講座（医科病院内科）の廣野准教授により明らかにされ、新潟市医師会報に研究内容が掲載されました。

SAS は睡眠中の間歇的な低酸素を生じて高血圧や糖尿病、脂質異常といったメタボリックシンドロームの原因となることは知られている。今回の研究で、SAS の治療をすることで非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）の炎症が改善することがわかった。ちなみに NAFLD は非アルコール性脂肪肝（NAFL）と中年以降の女性に多く肝硬変や肝がんに進行する可能性のある非アルコール性脂肪肝炎（NASH）に分けられる。CPAP を使用することで NAFLD が改善するばかりでなく、危険な NASH への進行を防ぐことができると考えられた。

SAS と NAFLD は因縁が深い関係なので、非アルコール性脂肪性肝疾患と診断されたら睡眠時無呼吸症候群の存在を考えて欲しいと結んでおります。